

(様式第1号)

平成30年5月2日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領域名：リハビリテーションに関する領域

科目名：生活支援のためのリハビリテーションの知識

単位数：2単位

認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人静岡県介護福祉士会

団体事務所の所在地：〒420-0856

静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階

電話：054-253-0818

FAX：054-253-0829

E-mail：shizukai@cy.tnc.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：一般社団法人静岡県介護福祉士会

申請責任者：会長 及川 ゆりこ



記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 \_\_\_\_\_

(※は記入しないでください)

### 認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年 5月 2日
申請団体名	一般社団法人 静岡県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 及川 ゆりこ
申請責任者職名	認定介護福祉士養成研修担当 理事
申請責任者氏名	水野 公智
団体住所	〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
同 Tel・Fax	Tel : (054)-(253)-(0818)
メールアドレス	Fax : (054)-(253)-(0829) E-mail: shizukai@cy.tnc.ne.jp
申請対象の領域	領域名 : リハビリテーションに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 生活支援のためのリハビリテーションの知識 (2単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
その他特記事項	

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

### 認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	生活支援のためのリハビリテーションの知識	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
研修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念や知識を活用し、リハ職種と連携しつつ生活を支援することができるようにする。</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念と ICF（国際生活機能分類）の考え方を理解し、生活リハの視点を持つことができる</li> <li>・関節・骨格筋・神経などの構造に関する知識を活用して運動学的に分析・評価する視点を持つことができる</li> <li>・病的な状態であっても、可能な動作を考え、支援することができる</li> <li>・心理的な知識・技術（人間関係論・コミュニケーション手法等）を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つことができる。</li> <li>・リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点や知識を習得し、連携・協働ができる。</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リハビリテーションの理念</li> <li>○心身の評価とアプローチ</li> <li>○各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係</li> <li>○運動学的視点を生活支援に活かす考え方</li> <li>○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点</li> <li>○心理的な理解を生活支援に活かす考え方</li> <li>○リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識</li> </ul>	<p>○事前課題（4時間）</p> <p>リハビリテーションの理念を自己学習しておく。</p> <p>この課題によって、生活支援の中におけるリハビリテーションについてディスカッションできるように、リハビリテーションの全体像を概観しておく。</p> <p>○リハビリテーションの理念①（1時間）</p> <p>【講義】</p> <p>1980年にWHOによって作られた国際障害分類（ICIDH）は、2001年に国際生活機能分類（ICF）に改定された。（1）ICFの目的、（2）改定された理由、（3）改定後の特徴について学び、ICIDHとICFの共通点、相違点の理解につなげる。</p> <p>○リハビリテーションの理念②（1時間）</p> <p>【講義】</p> <p>リハビリテーションの理念とICFの考え方を理解し、生活リハの視点を学ぶ。</p> <p>○心身の評価とアプローチ（1時間）</p> <p>【講義】</p> <p>疾病と障害の評価方法を学び、リハビリテーシ</p>

	<p>ョンにおける各種介入方法を理解する。</p> <p>○日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係（3時間） 【講義・演習】 主なADL動作を確認し、その中から幾つかの動作をとりあげて動作分析の演習を行い、観察すべきポイントを学習する。</p> <p>○運動学的視点を生活支援に活かす考え方（3時間） 【講義・演習】 安全で効率の良い介助方法について実例を説明した後に、現場でどのように活かすことができるか、ディスカッションする。</p> <p>○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点（3時間） 【講義】 疾患や障害によってできなくなった動作を補うという介護支援で終わらず、残存機能や潜在能力を引き出す介護を生活支援に取り入れる視点を学ぶ。</p> <p>○心理的な理解を生活支援に活かす考え方（2時間） 【講義】 身体的な反応は心理的な影響を強く受けている。心と身体は別々なものではなく、互いに関連し合っていることを理解し、生活支援に応用する方法を学ぶ。</p> <p>○リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識（2時間） 【講義・演習】 介護知識や介護技術の専門性を、リハ関連職種との連携・協働に役立てることはチームで活動する現場では必須である。利用者中心の他職種連携に必要な視点について議論し、考え方を共有する。</p>
<p>研修方法</p>	<p>■通学課程（集合研修） ■通信課程（通信研修）</p> <hr/> <p>○集合研修は、講義と演習を組み合わせで行う。</p>

	○課題学習は、事前課題として、①資料を読み自己学習、②レポート課題を課す。評価は担当講師が行う。
研修時間	20時間（集合研修 16時間）（課題学習 4時間）
修了要件	○原則として全課程の出席を要する。やむを得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。30分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。 ○修了評価として行う筆記試験（50問程度）において、A～C評価（100点満中60点以上）であること。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価とならなければならない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者</li> <li>・修士課程を修了していることが望ましい</li> <li>・日常業務で介護福祉士と共に働いた経験のあるリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・作業療法士等）、または、リハビリテーション科専門医（大学講師以上）が望ましい</li> <li>・補助者についても当該科目における十分な知識専門性を有し、講師等の教育経験がある者</li> </ul>
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	単位取得できるのは介護福祉士資格を有す者であること
修了評価（習得度、研修成果）	筆記試験（50問程度）により行い、100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価、59点以下D評価とする。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	30名（講師1名）演習時も同じ講師で行う
開催場所（都道府県）	静岡県総合社会福祉会館（静岡県静岡市葵区駿府町1-70）

認証申請する研修の実施体制等（届出事項）

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 31 年 1 月 21 日
	② 平成 31 年 2 月 22 日
	③
開催場所（会場）	① 静岡県総合社会福祉会館（静岡市葵区駿府町 1-70）
	② 静岡県総合社会福祉会館（静岡市葵区駿府町 1-70）
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>○リハビリテーションに関する領域</p> <p>◆氏名 古川和稔</p> <p>◆資格 理学療法士、介護福祉士、社会福祉士 介護支援専門員</p> <p>◆学位 博士（医療福祉学）</p> <p>◆職歴</p> <p>1996 年～2004 年 高齢者福祉施設にて介護業務に従事 2006 年～2007 年 訪問リハビリテーションに従事 2007 年～2014 年 宇都宮短期大学（2007 年～2010 年：専任講師、2010 年～2014 年：准教授） 2014 年～現在に至る 聖隷クリストファー大学、聖隷クリストファー大学大学院 教授</p> <p>◆社会活動</p> <p>日本介護福祉学会、日本保健医療社会学会、日本認知症ケア学会、日本理学療法士協会、理学療法科学学会、日本質的心理学会、日本自立支援介護学会、日本社会福祉士会、日本介護福祉士会、 日本社会福祉学会、日本生活支援学会、聖隷クリストファー大学社会福祉学会、 Asian Society of Human Services、日本ケアマネジメント学会、日本介護福祉教育学会</p> <p>◆著書・論文（2015 年以降のみ）</p> <p>【著書】</p> <p>(1) 介護を学ぶ 教える 日本介護福祉士養成施設協会編テキスト全 5 巻手引書. 竹内孝仁（編著）、井上善行、小平めぐみ、横尾恵美子、<u>古川和稔</u>、（著者は執筆担当ページ順）、2017、ファーストワン.</p> <p>(2) 介護福祉士養成テキスト 発達と老化の理解/認知症の理解/障害の理解/こころとからだのしくみ. 竹内孝仁（編著）、井上善行、小平めぐみ、横尾恵美子、<u>古川和稔</u>、（著者は執筆担当ページ順）、2016、法律と文化社.</p> <p>(3) 生活支援の基礎理論Ⅱ. 谷口敏代、上之園佳子、鈴木聖子（編著）、<u>古川和稔</u>、藤尾祐子、他 19 名、2015、光生館.</p>

【論文】

- (4) Factors Affecting Discharge to Home of Geriatric Health Services Users: An Analysis of Physical Conditions and the Contents of Care Received, Kazutoshi FURUKAWA, Megumi KODAIRA, Yuko FUJIO, Yoshimi SAKATA, Takahito TAKEUCHI, Asian Journal of Human Services, 14, (in press), 2018.
- (5) Survey to Assess Information-gathering During the Process of Designing Care Plans Regarding Nutrition Improvement, Yuko FUJIO, Yoshiko KUROKAWA, Kazutoshi FURUKAWA, Megumi KODAIRA, Noriko OGAWA, Asian Journal of Human Services, 14, (in press), 2018.
- (6) 介護老人保健施設からの在宅復帰に影響を与える要因在宅復帰の可否に影響するケア内容の分析. 古川和稔, 小平めぐみ, 井上善行, 藤尾祐子, 津森伸一, 竹内孝仁, 自立支援介護・パワーリハ学, 11(1), 68-77, 2017.
- (7) 特別養護老人ホームからの在宅復帰の可否と職員の意識のとの関連. 古川和稔, 厚生指標, 64(9), 8-14, 2017.
- (8) 自尊感情に着目し就業意識を高める養成教育のあり方介護職員を対象とした日韓比較研究より. 野田由佳里, 古川和稔, 介護福祉教育, 22(1), 87-95, 2017.
- (9) 要介護高齢者の在宅生活継続における特別養護老人ホームの役割に関する研究 在宅・入所相互利用制度の実践状況と課題. 古川和稔, 小平めぐみ, 井上善行, 藤尾祐子, 津森伸一, 竹内孝仁, 自立支援介護学, 10(2), 204-215, 2017.
- (10) 介護職員の高齢者ケアに関する認識の日韓比較研究 ケアに対する認識と自尊感情に着目した分析. 古川和稔, 野田由佳里, 柴崎かがり, Back Jong Uk, 自立支援介護学, 10(2), 216-228, 2017.
- (11) 特別養護老人ホーム職員の在宅復帰に関する意識調査. 古川和稔, 井上善行, 小平めぐみ, 藤尾祐子, 竹内孝仁, 自立支援介護学, 9(2), 136-146, 2016.
- (12) 特別養護老人ホームにおけるチームアプローチ実践の自己認識 学際的チームアプローチ実践評価尺度の検討とバーンアウトとの関連. 古川和稔, 井上善行, 小平めぐみ, 野村晴美, 藤尾祐子, 自立支援介護学, 8(2), 132-138, 2015.
- (13) 介護職のストレス. 古川和稔, 日本労働研究雑誌, 658, 26-34, 2015.

	担当する講義等 事後課題評価 古川和稔 氏（聖隷クリストファー大学・大学院教授） 経歴等は同上
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 （担当部局・人員）	認定介護福祉士養成研修実行委員会（非常勤：6名） 委員会事務局（担当事務局員：常勤2名・非常勤2名）  認定介護福祉士養成研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	静岡県介護福祉士会の定款、研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	及川 ゆりこ
機構問合先部署	静岡県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	平野 美智子
機構問合先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
機構問合先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
受講問合先部署	静岡県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	平野 美智子
受講問合先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
受講問合先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	静岡県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	及川 ゆりこ（会長）
管理担当者氏名	平野 美智子（事務局長）